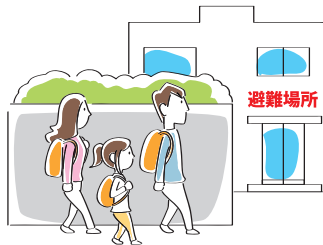


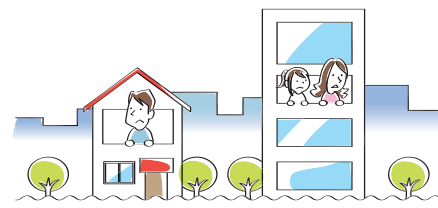
● 洪水災害時のとるべき行動

立退き避難 (水平避難)



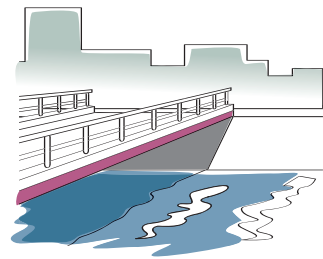
安全な場所まで移動することを立退き避難といいます。浸水区域の外または近くの高い建物に早めに避難しましょう。

屋内安全確保 (垂直避難)



浸水がすでに始まり、逃げ遅れた場合は、建物内のできるだけ高い場所へ避難しましょう。

河川に近づかない!!



増水した川は大変危険です!! 河川の水位は「岩手県河川情報システム」で確認できます(詳細は47頁で確認しましょう)。

危険な場所に近づかない



川や田畑の様子を見に行つてはいけません。河川が突然はん濫することがあり危険です。また、草地は滑りやすく、用水路に転落するおそれがあります。

● 土砂災害からの避難

早めの避難



台風の接近など、あらかじめ災害の発生が予想できる場合は、前兆現象や避難情報の発表を待たずに、土砂災害警戒区域などから立退き、避難場所や安全な場所にある親戚・知人の家などへ避難しましょう。

土砂災害に遭遇したら



土砂災害が発生してから避難するのは困難です。事前に土砂災害警戒区域などの範囲を確認し、土砂の流れる方向に対し、横方向に逃げるようにしましょう。

命を守る最低限の行動



もし立退き避難が間に合わず、土砂災害が近くで発生してしまった場合は、むやみに屋外に避難するより、建物の2階以上に避難し、安全を確保しましょう。

地震でも発生する



土砂災害は雨だけでなく、地震によって発生する場合があります。地震によって地下の深いところまで地盤がゆるむため、その後の地震や降雨でも土砂災害を引き起こす危険があります。

避難の呼びかけ、安全の確認



避難しましょう!



避難しましたか?

災害のおそれのある場合や災害発生時に、地域の住民や家族で声をかけあうことで避難が進んだ事例が多く報告されています。避難時には、周辺の人への「避難の呼びかけ」や、「安全の確認」を行いましょう。

● 避難の考え方

町指定の避難場所だけでなく、安全な知人の家など様々な避難先を検討しておきましょう。

町が指定した避難場所への立退き避難



安全な親戚・知人宅への立退き避難



安全なホテル・旅館への立退き避難



● 避難時の注意点

避難は「浸水が始まる前」「自主判断」「徒歩」が大原則です

大雨などの災害による危険がせまると、町から高齢者等避難や避難指示を発令し、町民のみなさんに避難を呼びかけます。ただし、身の危険を感じたら町からの呼びかけを待たずに避難しましょう。



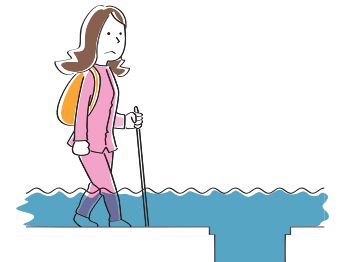
動きやすい服装で、必要最小限の荷物で避難しましょう。



歩きやすい「はき物」をはきましょう。長靴は、水が入ると重くなるのでやめましょう。



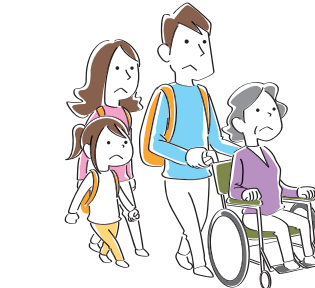
歩いて避難できる深さは、ひざ下程度といわれています。ただし、流れによっては足をすくわれ危険性があります。



地面が見えにくくなり、マンホールや水路などに落ちてしまう危険性があります。棒を使い、足元に注意して歩きましょう。



夜間の避難は、周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しましょう。



子どもや高齢者の避難を手助けしましょう(避難に時間がかかるため、早めの避難が大切です)。



車での避難は控え、徒歩で避難しましょう。車は浸水すると故障し、緊急車両の通行の妨げになる可能性があります。



地下道(アンダーパス)には、水が溜まっている危険性があります。違うルートを通りましょう。

● 過去の災害

町は大半を山林原野が占め、複数の河川が流れています。美しい景観を形成する一方、令和元年の台風第19号により、土砂災害やはん濫などの被害をもたらしました。過去の災害について知り、今後起きるかもしれない災害に備えましょう。